モードMode Modeは語る

中野 香織

高級香水「キリアン」

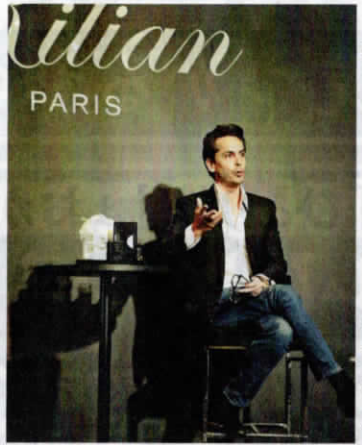
自分を守り深める世界観

香水界のロールス・ロイスと称される「キリアン」というブランドがある。創設者のキリアン・ヘネシーが来日、2日間にわたり話を聞く機会を得た。

コニャックの老舗ヘネシー家の8代目は、お城のコニャックセラーに並ぶオークの木樽が放つ芳醇（ほうじゅん）な香りに包まれて育った。家業に就きたくなかったのは、「自分の力で事業を成し遂げたかった」から。パルファムの世界に入り、ラグジュアリーブランドの香水部門を渡り歩いて著名な調香師たちのもとで学び、満を持して、2007年に自身の名を冠したブランドを立ち上げた。

超一流の環境で過ごしてきた御曹司が創る香水の世界は、香水に関する思い込みを覆し、本物のラグジュアリーについての示唆に富む。たとえば香水は何のためにあるのか。自身を魅力的に見せるための誘惑の武器という答えが西洋では主流を占める。しかしキリアンは、同時に香水は他者の影響力から自分を守る鎧（よろい）であり、自身の世界を深めるための盾となるのだと語る。

キリアンの野望のひとつは、香水を可視化すること。スプレイボトルには香水のストーリーにまつわる神話の彫刻が施される。ボトルを入れるケースはクラッチバックに転用できるが、そこにも香水世界のモチーフが。「グッド・ガール・ゴーン・バッド」のケースには、金色のヘビが巻き付く。香りが紡ぎ出すアダムとイブの原罪の物語が目でわかる。



ブランドについて語るキリアン・ヘネシー（6月、東京都目黒区）

芸術のような彫刻を施されたボトルは、詰め替え用の香水を入れることで永遠に使うことができる。「本物のラグジュアリーには無駄がない。捨てる行為とは無縁」という考え方が礎となっている。

嫌いな飲み物は「泡もの」。ストリートファッションは好まず、襟腰の高いシャツに黒いサンローランの上着、デニムを制服のように着る。インスピレーションの源は文学や映画と並んで「自分自身」。虚栄から身を守り、自身を熟成させた唯一無二の世界。香り、ビジュアル、哲学すべてが個性的ながら実は時空を超える古典のようでもあり、表層の「つながり」や「共感」の喧騒に疲れた心身に、じわりと深く染みわたる。（服飾史家）